

令和5年度 第2回石狩市社会教育委員の会議 議事録（要約）

日 時 令和5年10月11日（水） 15時00分～16時10分

場 所 石狩市民図書館 視聴覚ホール

出席者

[出席委員（11名）]

木村 純・大橋 修作・二上 朋子・出口 善久・山田 治己・船木 幸弘・近藤 宏

永田 志津子・高橋 典只・松本 史子・納谷 眞智子

[欠席委員（4名）]

渡邊 真奈美・大内 さつき・高橋 容子・坂見 明信

[事務局（5名）]

次長（社会教育担当）伊藤 学志 社会教育課 課長 斉藤 晶・主査 栗谷 幸介・主事 大澤 芽

主事 高津 柊

[傍聴者（1名）]

（事務局）

只今から令和5年度第2回石狩市社会教育委員の会議を開催させていただきます。初めに、木村委員長よりご挨拶をいただきます。

（木村委員長）

本日はお集まりいただきありがとうございます。ウクライナの戦争がなかなか終わらないと思っている間に今度はイスラエルで戦闘が激化しています。2017年に埼玉大学の名誉教授をされている暉峻淑子（てるおかいつこ）さんが「対話する社会へ」という本を書かれており、その中で「戦争暴力の反対は、平和ではなく対話です」とおっしゃられています。対話をする事と、対話を通して学ぶ事というのはまさに社会教育の役割ということを感じ、私たちは改めてかみしめたいと思いました。

コロナの先行きが心配で収まったようで収まっておらず、私の身近ではむしろ知り合いの方が罹っているとか、コロナに感染する方が増えているように感じます。7月には北海道の社会教育委員長研修を対面で行ったのに、10月のブロック研修はオンラインで行うなど、なかなか収まらない状況になっておりますのでお気を付けください。

さて、本日は議事が2つございます。「石狩市公民館樽川分館の廃止」と「今後の社会教育委員の取り組みについて」です。

はじめに石狩市公民館樽川分館の廃止について事務局から説明をいただきます。

議題1 石狩市公民館樽川分館を廃止することについて

（事務局 斉藤）

それでは、私から石狩市公民館樽川分館を廃止することについてご説明いたします。お手元の資料をご覧ください。石狩市公民館樽川分館ですが、こちらの施設は樽川地区の生涯学習の拠点施設として利用されてきましたが、築50年が経過いたしました。老朽化も進んでおり、昨年の冬には雪の重みで屋根がへこむ状態となっております。業者からは「どれくらいお金がかかるかわからない、老朽しているため修繕は難しい」という状態です。

この施設ですが、石狩市公共施設等管理計画では老朽化、また、安全に問題があるということから令和5年度までは機能を保持するということとなっており、以降、方向性を検討するという施設であります。2階は何年前から床の状態が悪く使用禁止となっております。

その施設を令和6年3月末をもって廃止し、その機能を石狩市公民館（学び交流センター）に集約することを検討しております。廃止後については、現在、樽川分館を利用されている社会教育関係団体の方々については石狩市公民館を利用していただくことになります。石狩市公民館（学び交流センター）は昨年、旧公民館本館が廃止になった際に、施設を改修し、部屋を増設し、火曜日を休館日としないかたちで対応し、受け入れられるような体制となっております。

また、樽川町内会・高齢者クラブなど、月に2回ほど活動している団体につきましては、昨年オープンしましたふれあいの子ども館を利用できるようにする準備を進めております。

資料に石狩市公民館で（学び交流センター）、樽川分館の概要を記載しておりますのでご覧ください。

次に平面図をご覧ください。石狩市公民館（学び交流センター）については、図面に記載しております第5研修室と実習室が令和4年度から新たに使用できるように改修した部屋です。

次に資料の4ページ目に、樽川分館の写真を載せています。2階部分の屋根がへこんだ様子が見られますが、雨や雪対策の修繕はしております。樽川分館は使用している団体は何団体かありますが、それらの団体が今後も活動を続けていけるよう、町内会活動をする団体は市の町内会担当部署が子ども館と調整して続けていけるように対応し、社会教育関係団体については活動拠点を石狩市公民館（学び交流センター）に移っていただき、今まで通り活動を続けていくよう準備を進めています。

併せて、現在パブリックコメントも実施しております。現在皆様にお見せすることができないため、内容を口頭でお伝えいたします。

3人の方から5件の意見をいただいています。そのうち2つは「集会所として使っていた」という意見でした。「集会所として使用していたのでありがたい存在でした。老朽化しており、取り壊すことには異論はないが代わりに町内会館の建設を希望する」という声もありました。

その他に「学び交流センターの駐車場が玄関から遠いので何とかしてほしい」という意見もあったのですが、こちらについては物理的に厳しいため、対応し難いといったところであります。

また、「文化的なことを発信する施設が無いため、本格的な市民会館の建設を希望する」といった意見もありましたが、こちらについては学び交流センターやコミュニティセンター等を利用していただくことになっておりますが、新たな文化関連施設の建設につきましては大きな宿題の一つとしてとらえておりまして、大きな施設の建設につきましては今のところ研究段階であり、具体的なことを示すことができる状況ではないということで返答したいと思っております。

また、「樽川分館の歴史的なものを残したい、施設を一部残すことはできないか」という意見も

ございましたが、樽川分館の老朽化が激しいというのがそもそもの問題ですので、改修によって建物を残すというのは難しいと考えております。

いずれにしても樽川分館を使用していた団体はこれまで通り活動ができるように関係所管と対応していきたいと考えております。

私からは以上でございます。

(木村委員長)

只今ご説明をいただきましたが、利用している市民団体の方々は老朽化により取り壊すことには異論はないができればもっと身近に活動できる場所が欲しいというご意見だったと思います。新しい施設等はまた別の課題だと思いますが、樽川分館を取り壊すことについて何かご意見ある方はいらっしゃいますか。

なかなか地域の方にとっては寂しいことかもしれませんが、樽川という地区はどういった地区なのでしょう。

(事務局 斉藤)

樽川にはいくつか町内会がございますが、樽川分館が所在する地区以外の地区には会館がいくつかありますが、樽川分館の地区にはなく、分館が集会所的な役割を担っていました。ただ、利用されていた方々も老朽化という面では致し方ないと納得されております。代わりにふれあいの社子ども館を使用していただけよう、担当所管にてルール作りをし、使用できるような準備を進めていると聞いております。

(近藤委員)

その地区にせつかくふれあいの社という立派な施設を整備しているので、そこで集約できるようにするのはいいことであると思います。ただ、老朽化が原因で廃止するということは解体することだと思いますが、その跡地に何か計画はないのでしょうか。

(事務局 斉藤)

老朽化しているため速やかに解体するつもりではございますが、跡地については特に計画はございません。

(出口委員)

老朽化は仕方のないことだと思うのですが、昨年度は公民館本館、今年度は樽川分館と施設がなくなっていますが、ほかの施設で本当に対応できるのでしょうか。

(事務局 斉藤)

樽川分館にて現在活動しているのがよさこい2団体、吹き矢の会、同好会、野球チーム、越後盆踊りというのが今使用している団体になります。これらの団体の活動回数的にも十分に学び交

流センターで引き受けられると考えております。

また、学び交流センターについてはこれらの団体を受け入れてもまだ空きがあります。

(木村委員長)

樽川地域全体の高齢化や人口の状況などはどうなのでしょう。

(事務局 斉藤)

樽川地区の人口は増加傾向にあると思います。

(山田委員)

樽川地区については、人口が増加傾向にあり、年齢層も比較的若い状態です。ほかの地区は高齢化が進んでいますが、樽川地区においてはこれからを担う世代が多く住んでいます。

樽川分館は確かに老朽化していますし、ふれあいの社子ども館を使用することができるのであれば、取り壊すのも仕方のないことかと思います。

(木村委員長)

少子高齢化は社会全体の問題です。樽川地区もこれまでのように人口が増えていくとは限りないとは思いますが、現在若い方が多く住んでいる地域ということで、今後利用していく施設についても相談しながら決めていくということによろしいでしょうか。

(出口委員)

老朽化ということですが、もう一つの分館については大丈夫なのでしょうか。

(事務局 斉藤)

美登位分館については比較的新しく、問題ないと認識しています。

(木村委員長)

質問は以上ですので次の議題に移らせていただきます。

議題2 令和5年度社会教育委員の取り組みについて

(木村委員長)

この議題は私から配布した資料にて進めます。資料をご覧ください。

～委員長より資料（2023年度 第2回石狩市社会教育委員の会議への提案）を説明～

(資料内2の② 行政や学校関係者に対してのヒアリングについて)

地域学校協働事業の中で、本部事業ではどんなことが話し合われているかということが知りたいわけです。地域と学校が様々な連携や協働をする中で、学校も変わる、地域も変わるという関係を築いていくといったところに社会教育の役割があると思います。専門の研究者や文部科学省で中心となって行政を進めた人の中にも、残念ながらそういった関係にはなっておらず、学校の要望を受けて地域の人がお手伝いをするという段階にとどまっています。

また、石狩市でも資料にありますように石狩八幡小学校や厚田学園などでの事例はありますがこれは地域も学校も変わるという関係性で行われているのか、これは報告書には書かれていません。そのため、ヒアリングを行います。

ヒアリングについては社会教育委員の皆様は日程を共有し、参加できるようにいたします。私と出口委員、大橋副委員長が事務局と中心となり進めていく予定でございます。

これについて、皆さまのご意見をお聞きしたいのですが、何かございますか。

(永田委員)

ヒアリングに加えていただきたいことがございます。学校の管理職の方々の「働き方改革」についての考え方を聞いていただきたい。学校の先生が地域のために出向くというのは学校の先生が勤務時間外で行うものということになります。となると校長先生はあまりよく思わないわけです。はっきりそうとは言わないですが、結局そこがネックになっていて、先生方が勝手にするわけにもいかないということです。木村委員長のお話を聞いていても、地域が学校を応援することはあってもその逆はなかなかありません。学校が地域に出向くというのはなかなか難しいことなのだと思います。そのあたりを校長先生、教頭先生はどのようにとらえるのかということをお聞きいただければと思います。

(木村委員長)

私は学校の働き方改革が大切だと思っていますので、先生方がかえって一方的に忙しくなるような協働は難しいと思います。しかし、その中で地域の方々と一緒にやりたくないと思っている先生はいないと思いますので、どんなことなら可能なのかということを考える必要があると思います。

ここには元校長先生もいらっしゃいますので、こういったアプローチが可能なのかということについてご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(山田委員)

現在、石狩でも少子化が進んでおり、どの小中学校でも深刻な状況といえます。部活を教える先生もいなければ、親も少なくなっている。それに加えて働き方改革ということで、非常に難しい問題であると思います。

(木村委員長)

現在、どこの地域でも起こっていることですが、親も大変であり先生も大変であるということ

をお互いに頭に入れて協働を進めなければならないということでしょうか。

(永田委員)

例えば、学校の中でも作品展示といったことがあると思います。ただ、地域で同じことを行うといった際に、おばあさんとお孫さんが一緒に出展することがあるのですが、これは学校ではできないことだと思います。協働ということが進まないためにそういった機会がどんどん減っていつてしまうことが非常に気がかりです。

(木村委員長)

地域の人たちが工夫をしていろんな学びの場を作っていることも先生方に理解してほしいですし、もちろん地域は先生がやりたくてもできないということを理解しながら、お互いに厳しい状況でも一緒に何ができるかということを考えなければいけない段階だと思います。

一つ一つバラバラではなく、今ある私たちの課題の中で地域と学校が協働することで解決できる課題やその方法は何なのかということを考えなければならないのではないのでしょうか。

(出口委員)

今の事例では、「学校の先生が作品を制作させ、地域に展示する」ということでそこが業務時間外となり、先生からすると現在の働き方改革に逆行しているということになります。しかし、そこそ先生に指導していただいて「先生抜きでも作品を制作し、出品できる」という状態にすることが重要で、そのための議論の場がコミュニティ・スクールです。「先生に負担をかけずに作品を制作・出品しよう」という議論を行い、考えることが地学協働になります。

その議論がきちんとコミュニティ・スクールで行われていればいいと思うのですが、校長先生が働き方改革を理由に不可能だと議論を打ち切ってしまうては意味がない。校長先生がそう言った議論をすべきと考えているのかどうかによって子どもたちの体験活動がこれからどんどん減っていつてしまうのではないかと思います。

そのため、一番大事なのは校長先生の考え方なのではないかと思います。

(木村委員長)

きっとどの校長先生にヒアリングするかということも大事で、校長先生が批判されているような形にならずに、一緒に何ができるかといったお話になることが必要だと思います。

(出口委員)

資料に双葉小学校など3校の事例が書かれていますが、地域学校協働活動に長年取り組まれているからこそ、例年の報告のみではコミュニティ・スクールの意味がないと思います。今年行ったことに何の課題があったか、ではどうやって解決するのか、子どもにもっと体験させるにはどうしたらいいのかと考え、議論するのが学校運営協議会なので、報告で終わってしまったては意味がなくなってしまう。そのあたりについて主にヒアリングしたいと思います。

(船木委員)

今お話を聞き、出口委員のおっしゃることはごもっともだと思いますが、それをヒアリングすると具体的な話になって、校長先生を責めることになりかねません。なので、校長先生がどうであるとか地域のことがどうであるとかといった「手段」ではなく、もう少し大きいところのなんの「目的」で何を成し遂げたいのかということを話すべきであると思います。

話し合いをするというのは手段ではなく、まず夢を語ってその夢に向けてどんな協働ができるかという段階が必要であると思います。

ばらばらの手段をとっているから結局報告のみになってしまっていて、大きな目的はないというような状態が生まれてしまいます。大事なのは共通で目指す何かであると思います。

(出口委員)

コミュニティ・スクールの目的、目標ということで言うと、「どういう子どもに育てたいか」「今の子どもの課題は何なのか」そのために何ができるかということを議論していき、協働を行っていきます。ただ、資料の実施状況に記載されているものは何のために行っているのかと校長先生に毎年聞いても答えられないと思います。そのために我々が学校運営協議会で何が話し合われていて、何が足りないのか、何をすべきなのかというアドバイスをすることが大切だと思います。だから、学校運営協議会が年に4回というのは形骸化しており、議論を積極的にしていくには足りないと思います。

(木村委員長)

本当は目標を高く持って楽しくやっている例を聞きたいです。北海道や全国的に行っているところがあればその話も聞いてみたいところではあります。

今いただいた意見を踏まえまして、ヒアリングのスケジュールや人選など進めていきたいと思っています。

(大橋副委員長)

私も今お話聞いておりまして、委員長から先ほど「学校からのお願いが多い」というお話があり、やはりどちらか一方の話を聞いているだけではなかなか成り立たないと感じました。

学校も地域は何を求めているのかを聞いて行動しなければならないと思います。

(木村委員長)

ヒアリングについては日程や場所など皆さまにも参加していただきやすい形で行いたいと思いますので、ぜひご参加いただければと思います。

(出口委員)

管理職の方だけではなく、コーディネーターの方にもヒアリングを行ってはどうでしょうか。現在の活動ややり甲斐などといったことについて伺いたいです。

(木村委員長)

積極的にボランティアなどに参加されている方々や、石狩市で言いますと地域コーディネーターの方がコミュニティ・スクールの運営委員でもあるということなので、ヒアリングをお願いしたいです。

(永田委員)

町内会の青少年育成委員会というようなところの方々についてはヒアリングなど行わないのでしょうか。

(木村委員長)

もちろん対象となりますが、たくさんの方がいらっしゃると思いますので、熱心にやっておられる方を対象にしたいです。おそらく今挙げたものを兼任しておられる方もいると思いますので、そういったところも色々とお聞きしながら対象は決めたいと思っています。

このような方向で具体的に進めていきたいと思っています。皆さまにも日程等お知らせいたしますのでご協力いただければ大変ありがたいと思います。

本日の議題についてはこれで終了いたしました。

その他 第62回北海道社会教育研究大会について

(木村委員長)

その他について事務局からあればお願いいたします。

(事務局 斉藤)

～資料(第62回北海道社会教育研究大会兼全国社会教育委員連合北海道ブロック大会 開催要項)説明～

(木村委員長)

質問等なければ、これで令和5年度第2回石狩市社会教育委員の会議を終わります。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

令和 5 年 11 月 23 日

石狩市社会教育委員の会議 委員長

木 村 純